

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	変わる日本航空の事業・変わらない日本航空の信念
報告者	国際経営学部国際経営学科 1年 奥津ひなた
調査日	2022年11月4日(金) 14:30～17:30
調査先	日本航空株式会社 執行役員 人財本部長 小枝直仁 様 人財本部人材戦略部 グローバル推進室 請地世中 様 デジタルイノベーション本部 イノベーション推進部 大山彩花 様 オペレーション本部 オペレーション業務部 山崎崇央 様 オペレーション本部 オペレーションコントロール部 長田信泰 様
担当教員身分・氏名	教授 国松麻季
CVS(企画運営団体)担当	築地玲奈、川名英介、鈴木萌恵
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生 27名、2年生 3名
調査趣旨・目的	航空業界の業務がどのように行われているのかを知り、企業概念、コロナ禍で受けた影響や現状、今後の課題などについてお話を伺う。
調査結果	<p>企業訪問当日は初めに、人財本部長の小枝氏から日本航空の業務の全体像を伺った。新型コロナウイルス蔓延の影響により、旅客運輸分野が縮小するなか、貨物運輸分野は需要増加により好調である。そして日本航空は現在、カード事業やマイル事業、インフラストラクチャー事業など多方面に活動範囲を広げ、今後主要ビジネスとして経営することを視野に入れている。バリエーション豊かに変わりゆく事業を支えているのは、社員を第一と考えた企業理念と、JAL フィロソフィという役職を問わず従業員が皆持っている価値観であった。破綻を経験した日本航空はまさにゼロから再スタートを切って経営を立て直したことから、他の航空会社とは一線を画した風土の違いを感じさせる。変化していく事業に対応すること、社員に対して真摯に向き合う姿勢を保ち続けることこそ、日本航空の強みであると考えた。</p> <p>次に、365日欠かさず運航を支えるセクション・IOC(Integrated Operations Control)オフィスでは、山崎氏、本学卒業生の長田氏に、IOCの役割や「陸のパイロット」こと Flight Dispatcher(運航管理者)・オペレーション部門の業務内容について伺った。1日の国内線約650便、国際線約150便の経路・飛行高度・代替飛行場・燃料などを定めたフライトプランの作成や実際の運航のイレギュラーに遠隔から対応することなどが主な業務として挙げられる。24時間交代制で運航管理するため、夜間勤務などの負担はあるものの、若手でも活躍するチャンスがあり、やりがいのある業務であるのご説明いただいた。</p>

最後に、機内食試作・従業員の遠隔アバター運用など新しいサービスを検討したり、創造したりする場として活用される JAL イノベーションラボでは、人財本部・本学卒業生の請地氏、イノベーション推進部・本学卒業生の大山氏に、学生からの質疑にお答えいただいた。人財本部は、社員が生き生きと働くことができるという観点のもと人財整備を行っており、イノベーション推進部はサービス・モノづくりによって、空港・機内周辺事業のサポートを行っている。

学生からの質問で、日本航空が求める理想的な学生像についてお伺いしたところ、「自律性を持って行動することができる学生」であるとお答えいただいた。請地氏は自分なりの個性を活かし、アクションを起こすことで多様な価値観を企業にもたらし、大山氏からは、現場にあった状況を従業員 1 人 1 人が判断し行動する力が企業の強みになるとご回答いただいた。

今回の企業訪問で、社員第一の企業理念、それに応える従業員の「JAL フィロソフィ」や仕事に対する熱意・行動力が日本航空の新しいビジネスとサービスを生み出しているを知った。学生にとっては、今回の訪問が修学のうえでも、進路を検討するうえでも大きな刺激となった。

オペレーションルームにて



企業概要や仕事内容など、様々なお話を伺いました。



JAL イノベーションラボにて様々な質問もさせていただきました。





最後に集合写真を撮影して締めくくりました。

とても貴重なお話と機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

